

成果指標設定調書

【成果指標の設定】

成果指標設定年度 令和2 年度

市町村名	桶川市		
提案事業名	市制施行50周年を契機とした持続可能なまちづくり事業		
事業期間	令和2 年度	～	令和2 年度
事業の必要性、目的	<p>■ 市制施行50周年を契機として、市内外への情報発信や市民との協働によるイベントなど、感謝と未来への願いを込めた記念事業を展開し、関係人口の創出やシビックプライドの醸成を図る。</p> <p>■ 令和2年度は、世紀の祭典となる東京2020オリンピック・パラリンピックの開催や戦後75周年を迎えることから、スポーツの振興や平和を祈念した醸成事業を展開し、桶川市の半世紀に渡る節目の年とする。</p> <p>■ 持続可能なまちづくりを推進する観点から「SDGsを原動力とした市制施行50周年記念事業」とする。</p>		
成果指標	(成果を検証する指標)		
	◆市民1人、1日当たりの生活ごみの排出量		
	(成果検証の具体的な方法)		
	◆環境センターに搬入されるごみの量から、市民1人1日当たりのごみ排出量を算出する。		
	(上記の指標を設定した理由)		
	◆「未来に豊かで持続的な環境を残す願いを込め」、ノベルティグッズの原材料にはバイオマスプラを活用し、多様な世代へ環境保護に対するメッセージ性を高めるほか、エコバックを配布するなど、メッセージ性のある記念事業とすることから、指標を市民1人、1日当たりのごみの排出量縮減とし効果検証を行う。		
	(成果の目標値)		
現状値 (R2年4月現在)	625 g/人/日	目標値 (R3年4月時点)	621 g/人/日
(施設建設等の場合)			
年間利用者数(目標)(人)		稼働率(目標)(%)	
住民への公表方法及び特記事項	・市ホームページにて公表する。		

【成果指標と構成事業の関連性】

令和2年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費(千円)
① 漫画まちづくり冊子作成事業	ソフト ・漫画の要素を取り入れることで子供にも親しみやすい内容となる。SDGs(つくる責任 つかう責任など)についてふれ、多くの市民に持続可能なまちづくりについて必要性を伝える。	2,730
② 子ども達の願いを込めたノベルティグッズ作成事業	ソフト ・ノベルティグッズには、子ども達が未来への願いを込め制作したシンボルロゴを刻印する。グッズの原材料にはバイオマスプラや使用済みペットボトルを活用し、多様な世代へのメッセージ性を高める。 ・子供、障害者、高齢者など多様な世代が利用できる生活に身近なものをノベルティグッズとし、誰でも使いやすいグッズを想定する。海洋プラスチックゴミの削減やエシカル消費など環境保護への取組みを踏まえ、グッズは記念事業の参加者などに配布し、環境に配慮した持続可能なまちづくりを市全体で取り組む。 ・記念事業の参加者にエコバック等を配布することにより、市のごみの減量化など直接的な効果が期待できる。	1,604
③ 市勢要覧作成事業	ソフト ・桶川市の歴史や文化、持続可能な未来(SDGs)に向けた願いを市勢要覧として編集し、記念式典の出席者などに配布及び市ホームページに掲載することにより、多くの世代にメッセージ性のある効果的な手段であり、シビックプライドの醸成に効果がある。	2,380
④ 持続可能なまちづくりメッセージ発信事業	ハードソフト間接補 ・新聞媒体を用い「これまでの桶川、これからの桶川」を掲載し、広く情報発信することにより関係人口の創出やシビックプライドの醸成を図ることができる。	660
合計		7,374

【成果指標の達成見込み】

<p>目標達成のための具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市制施行50周年を契機に、子ども達と協働により制作したシンボルロゴは、桶川市の未来を担う子ども達の思いが込められており、大人たちへのメッセージ性は非常に強い。メッセージは、伝える手段とインパクトの両面に留意している。 ・漫画によるまちづくり冊子、ノベルティグッズには、子ども達が未来への願いを込め制作したシンボルロゴを刻印し、グッズの原材料にはバイオマスプラや使用済みペットボトルを活用し、多様な世代へ環境保護のメッセージ性を高め、エコバッグを配布するなど効果的な情報発信を展開し成果指標の達成を目指す。
<p>成果指標の達成見込み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的にSDGsに関する取組が推進されており機運が醸成されている。半世紀の節目となる市制施行50周年を契機に、持続可能なまちづくりの有用性について情報発信することによりメッセージ性を高める。環境に配慮したノベルティグッズの配布や能動的な情報発信がきっかけとなり、市全体での環境保護に対する意識が高まり目標を達成することができる。